



存在感ある特殊鋼メーカーをめざして

常務取締役
藪木 清

山陽特殊製鋼技報第16巻発刊に際し、一言ご挨拶を申し上げます。

当社は昨年3月に、2008年度を初年度とする第7次中期経営計画を公表致しました。

経営基本方針は、「高信頼性鋼の山陽」のブランド力の更なる向上による企業価値の増大であります。

高品質の特殊鋼の安定的な供給を通じて、需要家の競争力向上に貢献するとともに、当社としても利益成長を図り、事業基盤を一層強化して「世界に存在感を示す特殊鋼メーカー」を目指すものです。

技術面における重点施策としては、高機能な差別化商品や製造技術の開発などによる技術先進性の拡大を推進すること、また、品質保証の高度化、生産対応力、納期対応力の強化に取り組むなどの非価格競争力の強化を図ることによって、国内外の高度化する需要家ニーズに応えていくというものです。

さて、近代製鉄150周年にあたります初年度（2008年度）は、大激変の1年となりました。前年度に続き、中国・インド等のBRICs諸国や資源国を中心に、世界規模で鉄鋼需要が拡大する中でスタートしました。自動車、建設機械、産業機械などの需要業界の生産活動の拡大に応えるために、鉄鋼各社は安定供給のための上方弾力性発揮が求められました。需要拡大に伴い鉄スクラップ、合金鉄など鉄鋼原料、諸資材は記録的に高騰しました。しかし、年央に始まった米国発の金融危機が全世界の全産業へ広がるにつれて、特殊鋼需要業界におきましても全業種で下期は一転、大減産となりました。全速力から急ブレーキの需要変化で、特殊鋼生産はピークの月とボトムの月を同一年度内に経験する歴史的な年になりました。足元は過去に経験のない低水準の受注・生産状況となっています。

改めて視点を当社中期経営計画に戻しますと、景況に関係なく全社一丸となって取り組むべき重要な項目ばかりです。特に、省エネ、省資源、環境対応の開発ニーズはこの間にますます増大しています。この不況を、フルアップしている時には出来難かった開発課題に需要家と一緒に取り組むチャンスを得たと考えたいと思います。当社のコア技術であります「高纯净度鋼製造技術」を更に進化させて商品化したい、また受注から納品まで「高信頼性鋼」にふさわしいプロセス、品質保証の高度化で非価格競争力の強化を図っていく、そのための投資は当初計画規模で実行して参ります。

当社は鉄スクラップを鉄源とする電炉特殊鋼メーカーとして、環境対応に配慮した資源循環型社会の構築に向けた事業活動を推進し、需要家の皆様、地域社会から高い信頼を得られるよう努力して参る所存です。

引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。